はじめに

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が、昨年 5 月 8 日に感染症法に基づく「2 類相当」から「5 類」に移行して 8 ヶ月が経ちました。県内を訪れる観光客も増えるなど社会経済活動が活発化しており、徐々にコロナ前の活気を取り戻しつつあります。

また、平成 28 年熊本地震で倒壊し大きな被害を受けた阿蘇神社の国指定重要文化財である楼門が同地震から約 7 年半を経た昨年 12 月に復旧工事・再建工事が完了しました。「日本三大楼門」の一つとされる楼門の完成で、他の国指定重要文化財 5 棟や拝殿を含む神社の主要建造物はすべて復旧し、熊本地震からの復興を肌身で感じられるところです。

そのような中、迎えた令和 6 年でしたが、元日に能登半島地震の報道が飛び込んできました。熊本地震と同じ震度 7 という報道に当時の記憶が呼び起こされました。そして徐々に飛び込んでくる現地の状況に、同じく地震を経験した身として心が痛みました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

さて、この所報は、令和 4 年度に進めてきました調査研究の成果等を取りまとめています。一例を挙げますと、衛生分野では「LC-MS/MS を用いた畜水産物中残留農薬一斉分析法の検討」や「熊本県の市中における薬剤耐性菌の腸管内保菌調査」、環境分野では「荒尾地域の地下水における硝酸性窒素濃度について」などです。関係者の皆様には、是非とも御高覧いただき、御活用いただくとともに、忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。

最後に、令和 6 年（2024 年）末には本県菊陽町に新たな工場を建設している台湾の世界的な半導体メーカー（TSMC）が半導体の量産を開始する予定です。現在、周辺地域では鉄道や道路、住宅等のインフラ整備が急ピッチで進められており、熊本県にとって大きな転換点を迎えることになります。今後も他機関等とも連携・協力しながら、地域保健、公衆衛生、環境保全に関する科学的・技術的中核として専門的な技術や知識を駆使しつつ、県民の健康及び地域の環境を守るための調査研究に取り組んで参ります。

引き続き、関係各位の御支援及び御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 6 年 1 月

熊本県保健環境科学研究所
所長　廣畑　昌章